

平成17年2月4日

インフルエンザの流行状況について

(今年もインフルエンザ流行シーズン入り)

平成17年第3週(1月17日～1月23日)の感染症発生動向調査では、インフルエンザの定点あたり報告数が2.81(報告数13,198人)と流行の目安としている1.0を上回りましたので、今年もいよいよインフルエンザ流行シーズンに入ったと考えられます。

流行シーズンに入った時期としては例年より遅く(ここ10年で平成12～13年のシーズンについて二番目に遅い)、昨シーズンと比べると3週ほど遅くなっております。

ついては、以下の予防対策を改めて国民に周知したいので、報道機関の皆様方にも御協力をお願いいたします。

インフルエンザは、インフルエンザにかかった人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫と共に放出されたウイルスを、鼻腔や気管など気道に吸入することによって感染します。インフルエンザが流行してきたら、人混みは避けましょう。

空気が乾燥すると、咽頭粘膜の防御機能が低下して、インフルエンザにかかりやすくなります。外出時にはマスクを利用したり、室内では加湿器などを使って適度な湿度を保ちましょう。常日ごろからバランスよく栄養をとることも大切です。帰宅時のうがい、手洗いは、かぜの予防と併せておすすめします。

また65歳以上の高齢者の方で、まだ予防接種を受けられていない方は、ワクチン接種をお勧めします。

なお、詳細については、インフルエンザホームページをご覧ください。

○ インフルエンザホームページ

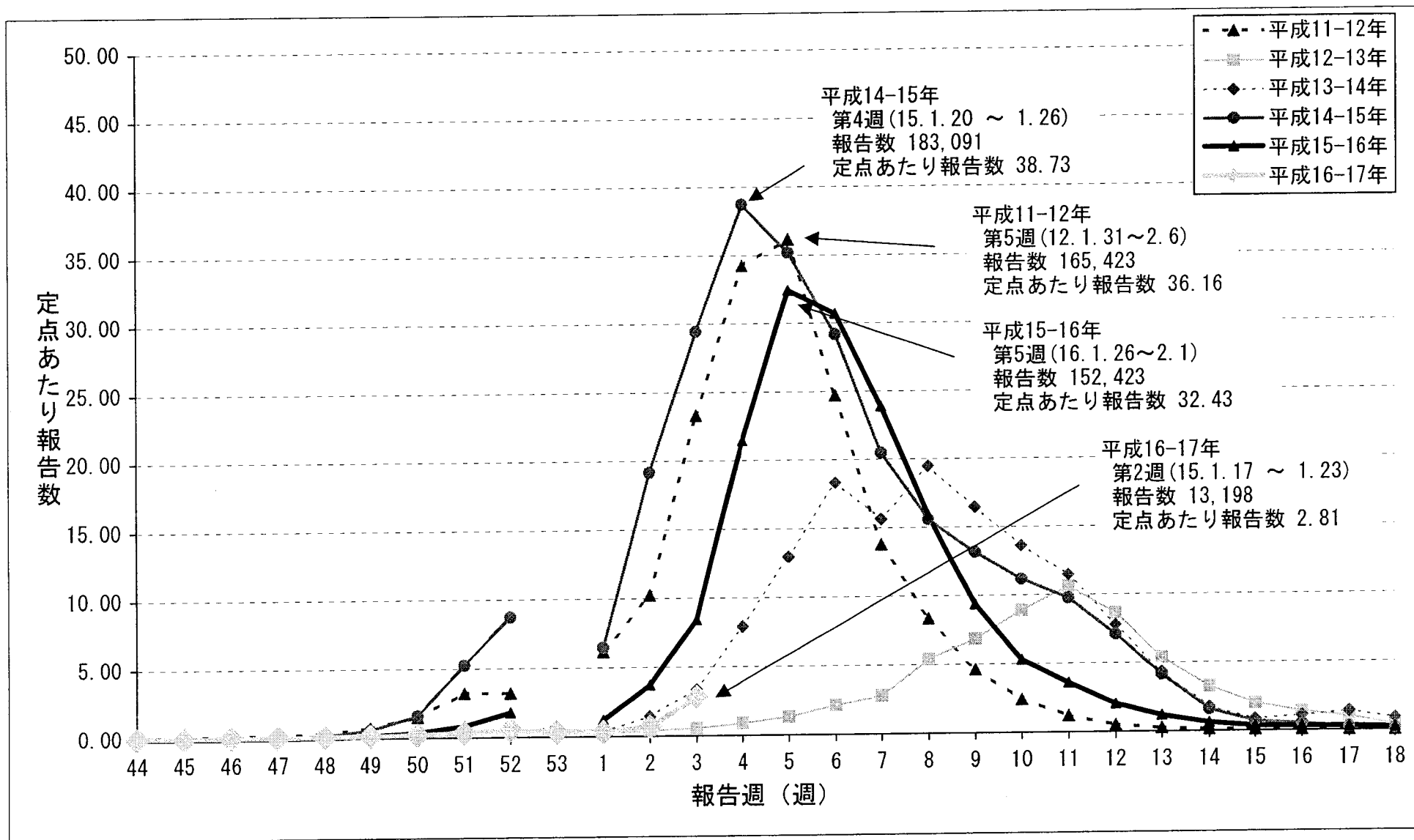
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/0111/h1112-1.html>

【参考：今シーズンの現段階での特徴】

AH3型のみならず、AH1型、B型のインフルエンザウイルスの分離報告数も多い。
(今週のIDWR5、10、21ページも参照ください)

1. これまでの分離状況 : AH1型68件、AH3型100件、B型115件
2. 昨シーズンの分離状況 : AH1型5件、AH3型4,740件、B型290件、他28件

週別にみたインフルエンザ定点あたり報告数の推移



資料：感染症発生動向調査（全国およそ5,000医療機関（小児科およそ3,000、内科およそ2,000）からの定点報告）

注1：報告週は、11月第1週から翌年4月最終週の期間に相当する。（平成15-16年は16年第14週までの期間）

注2：平成16年以降については、概数である。

注3：平成16年以外は1年間は52週期である。